

## ロータリーデー活動

神戸北ロータリークラブ 会長 松田 洋三

東日本大震災後3年数カ月が経ち、人々の脳裏から震災の記憶が消えかかっています。しかし震災を受けた地域の復興はまだまだの状況で、本当に悲しい現実があります。神戸北ロータリークラブでは東日本の子供たちを神戸に招待し、同じ震災を受けた神戸の街が地震後20年でこの様に復興した姿を見学してもらい、東日本の20年後の未来が希望を持って実現していったらいいなと願って企画しました。7月31日～8月2日、岩手県陸前高田市の小友小学校の6年生15人と保護者5人の計20人を神戸に招待しました。阪神・淡路大震災の折には、全国のロータリークラブから暖かい支援を頂きました。私たちロータリアンは少しずつでもお返しをしていかななくてはならないと考えていました。今回、当クラブの堀内正美会員の紹介で、陸前高田ロータリークラブの協力を得て、招待する小学生の選考をお願いしました。神戸の街も、阪神・淡路大震災により壊滅的な打撃を受けました。あれから20年が経過し大変な努力を続け、神戸の街は回復しました。

最初に、神戸の犠牲者の鎮魂の場所である神戸市役所前の「希望の灯り」、神戸市街地、ポートライナーのモノレール、六甲山からの夜景、復興のシンボルである鉄人28号像、神戸港、明石大橋などをみてもらいました。また、当クラブの例会にも参加してもらいました。子供たちに将来の夢を語ってもらい、企画した当クラブの会員の心にも陸前高田の現状が深く刻まれることになりました。この例会に、神戸第2グループの吉川孝郎ガバナー補佐および宇尾好博前ガバナー補佐も出席して頂きました。ロータリー活動として、マスコミにも多く取り上げられ、社会に少なからず貢献できたと考えています。

